

次世代シニアと 現在形シニア

その意識と行動

NEXT
OLD



NEW
OLD

◎2020年を過ぎる頃から現在の50代は、65歳以上の高齢者の仲間入りをし始めます。今の50代が高齢者の仲間入りをすると超高齢社会はどのように変わるのでしょうか？また、高齢者にとつての幸せや生きがいとは、何なのでしょうか？

▼公益財団法人ハイレイフ研究所では、この先の超高齢社会を見据えた研究を行う一環として50代から70代前半男女の生活行動、生活意識調査を実施いたしました。（調査概要を参照）。

▼ここでは、その調査結果の一部を連載コラムとしてご紹介いたします。

「次世代シニア（50代）」と「現在形シニア（60代後半から70代前半）」の年代間比較、男女間比較、ときにそのハザマとなる60代前半の特徴なども織り込みながら、それぞれの意識や行動をお伝えいたします。

▼また、「仮説的」な読み解きや、「一生活者」として感じた生きるためのヒントなども添えていきたいと考えていますので、ぜひ一読下さい。

公益財団法人ハイレイフ研究所

執筆者：主任研究員 福興宜治

＜ハイレイフ研究所「次世代高齢者調査」調査概要＞

①調査対象 東京30km圏に居住する満51歳～75歳の男女

②標本数(有効回収数)500 51～55歳・56～60歳・61～65歳・66～70歳・71～75歳 男女計各100

③標本抽出法 エリアサンプリング法 ④調査方法 留置法(訪問調査) ⑤調査時期 平成28年10月～11月

次世代シニアと 現在形シニア

その意識と行動

NEXT
OLD



NEW
OLD

第二回

現在の生活には
満足？

幸せを感じるの
はどんなとき？

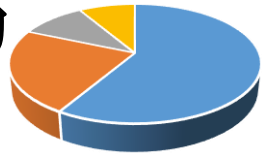


第二回

現在の生活には満足？

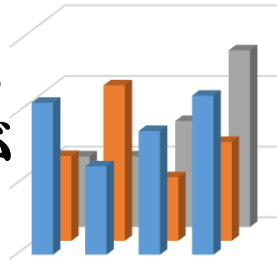
幸せを感じるのはどんなとき？

■50代から70代前半男女の多くは
現在の生活全般を「**まあ満足**」と肯定的
に捉えている。



■生活分野別で満足度が低いのは「**お金**」、
不安を感じるのは「**お金**」と「**健康**」。

■労働力の中核をなす生産年齢に属する
次世代シニアよりも現在形シニアの方が
「**仕事に満足**」。



■幸せって。**おいしい**こと、誰かと**一緒**に過ごすこと、
よく**眠れる**こと。たまに**旅**をすること、
そして誰かの**役に立つ**こと。

■女も男も次世代シニアは**家族全員**と過ごしたとき、
現在形シニアは**ぐっすり眠れた**とき、幸せ感じる。

■**女性**は、**幸せの種**を生活の中から拾い上げるの
が上手？気になる**男性60代前半**と後半のポイント
落差！

第二回 現在の生活満足度は？ 幸せを感じるのはどんなとき？

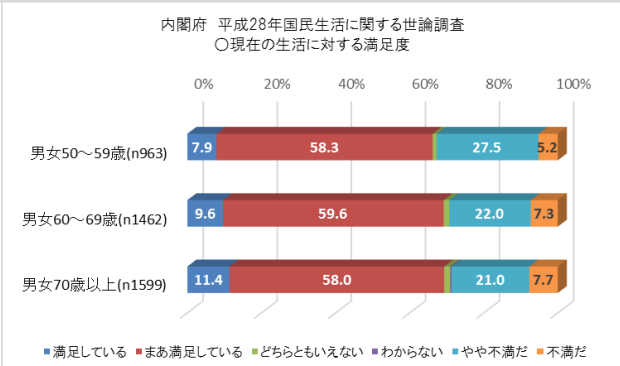
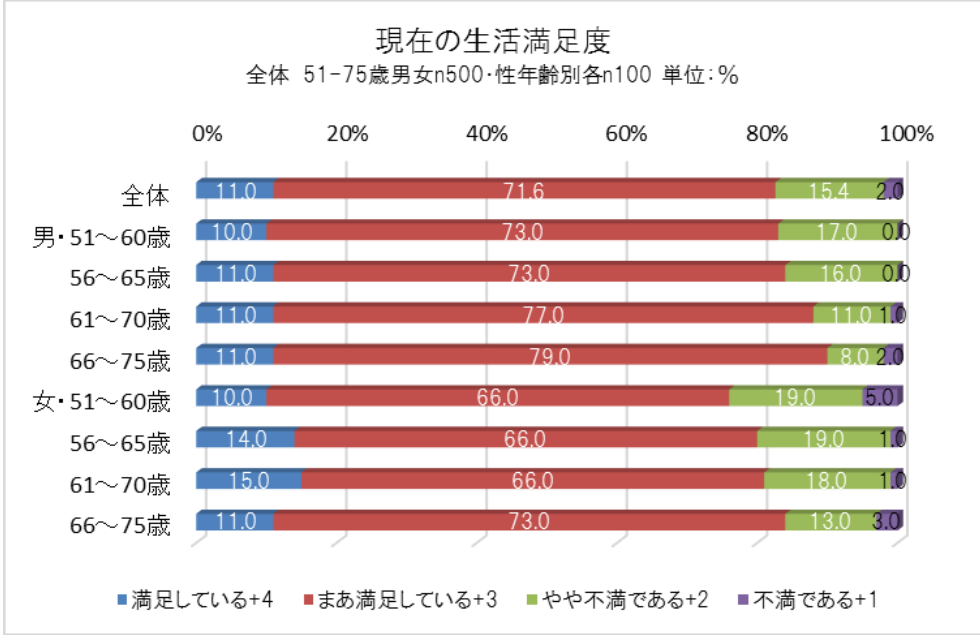
●50代から70代前半男女の多くは現在の生活全般を「まあ満足」と肯定的に捉えている。

今回は「日常生活全般と生活分野別の生活満足度」と「この一年で幸せを感じたとき」を調べた結果についてご紹介します。まず「日常生活全般の満足度」についてみてみましょう。
下のグラフをご覧ください。「やや満足」を含む満足層は全体で約8割、「やや満足」は内7割となりました。

女性より男性の方が、年代が下より上の方がやや高くも見えますが有意な差とはいえません。「やや」に答えが集中するのは断言しない日本人の気質なのか、総じて自らの現在をよしとしつつ「もっと上の満足」を求めているのか、「不満もあるがこれで満足としなければ世間に申し訳ない」という謙虚な気持ちがあるのか、それは様々だと思います。

でも「ちょっと満足度が高過ぎない？」と思った方、多いのではないのでしょうか。そこで「内閣府 平成28年国民生活に関する世論調査」の類似する質問の答えを見ると、次頁グラフにあるように「まあ満足」は約6割となります。約1割高い数値を示しています。今回の調査対象者が所得、資産、持家状況などの点で世の中の平均よりやや上であることの影響がうかがえます（この点については改めてお話しします）。

いずれにしても「まあ満足」と肯定的に今の生活を捉えている人が多数存在することは事実のようです。少し安堵する結果ですが不満層にももちろん眼を向けていく必要があります。



●生活分野別に比べると満足度が低いのは「お金」、不安を感じるのは「お金」と「健康」。

次に、生活分野別に「満足度」と「不安度」を見ていきましょう。満足は現状に対する気持ち、不安は将来に対する気持ちと捉えることができます。日常生活全般では高かった満足度も分野別にみると一律ではないことが分かります。

満足度が最も高い分野は「人との交流」で約9割（89%）、最も低いのが「家計・経済」で半数強（56%）となります。では、不安度はどうでしょう。不安度が最も高いのが、約6割を示す「健康」（61%）と「家計・経済」（59%）、低いのは「人との交流」と「趣味・楽しみ」で2割以下となります。満足はプラス、不安はマイナスの概念のため比較する上で、ここからは「満足度」と「非不安度（あまりを含め不安は感じない率）」を比較してみましょう。現在の生活に満足していて将来にも不安を感じないのが理想です。ここでは満足度から非不安度を減じて（満足度－非不安度）みました。

結果は、

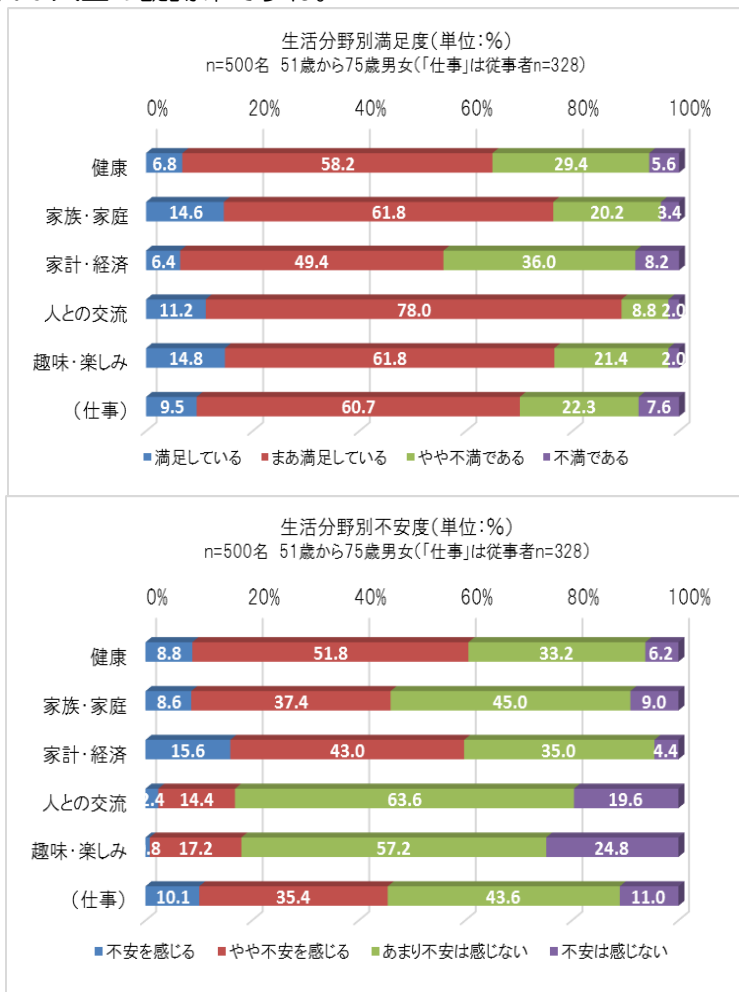
「健康」-26% 「家族・家庭」-22% 「家計・経済」-16% 「仕事」-16%

「人との交流」-6% 「趣味・楽しみ」+5%

でした。

「家族・家庭」のマイナス幅に注目です。確かに今は満足していても家族の関係は加齢とともに変化します。同居か近居か、子供の結婚は、親や配偶者の介護は、相続トラブルは・・・など、心配事は増えるばかりです。それに対して期待がふくらむのが「趣味・楽しみ」の広がりです。人生の時間配分を変える、新しい趣味を始める、昔の趣味を復活させるなどで第二の人生を楽しむ、いいじゃありませんか！

でもその実現も健康やお金などの生活資源に左右される・・・楽しくもあり難しくもある、難しければ知恵で切り抜ける、それが人生の醍醐味ですね。



●労働力の中核をなす生産年齢に属する次世代シニアよりも 現在形シニアの方が「仕事に満足」。

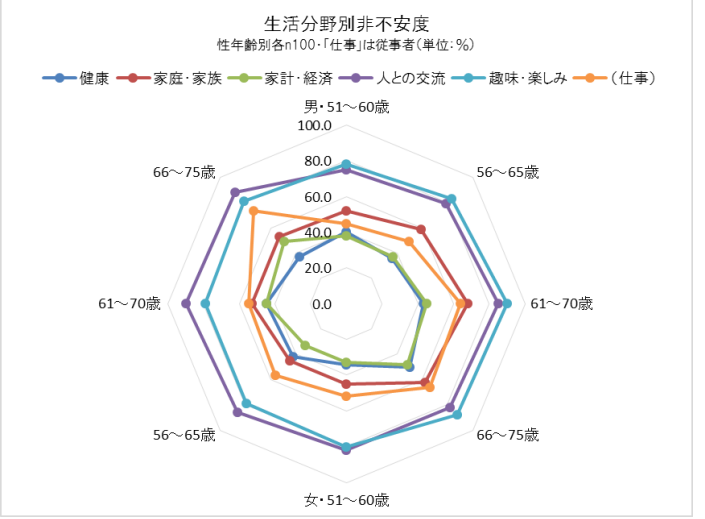
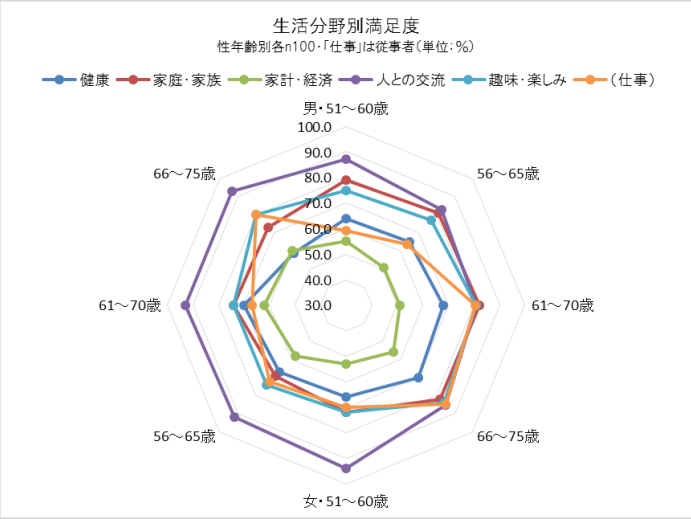
次に、現在形シニア（60代後半から70代前半）と次世代シニア（50代）を中心に、生活分野別満足度と非不安度を見ていきましょう。左下が満足度、右下が非不安度を表したレーダーチャートです。

【生活分野別満足度】

まず目に付くのは「人との交流」が紫の大きな弧を描き、満足度が性・年代を問わず高いこと。もうひとつが、歪な形をした橙色の（仕事）の弧です。特に男性において、次世代シニアを含む60代前半までの人たちよりも、現在形シニアの方が仕事に対する満足度が高い傾向を示しています。これは例えば定年、再雇用を経て仕事との新たな向かい合い方、働き方、時間などを自らの判断で選び無理なく働く人や自営業などライフワークとして働き続ける道を選んだ人などの存在が想像できます。一方、次世代シニアの50代の中には役職定年など社内のポジションが変わりいまひとつモチベーションが上がらない中で働いている人たちの姿が想像できます。皆さんはどう読まれるでしょうか。

【生活分野別非不安度】

空白で示された「趣味・楽しみ」が「人との交流」同等の広がりを見せ、各層で示しています。現在の満足度と対比で落ち込みが目立つのは次世代シニアの「健康」「家庭・家族」です。体調の変化、働き始めた子供の将来、定年間際など老後の不安を感じ始めるお年頃なのではないでしょうか。

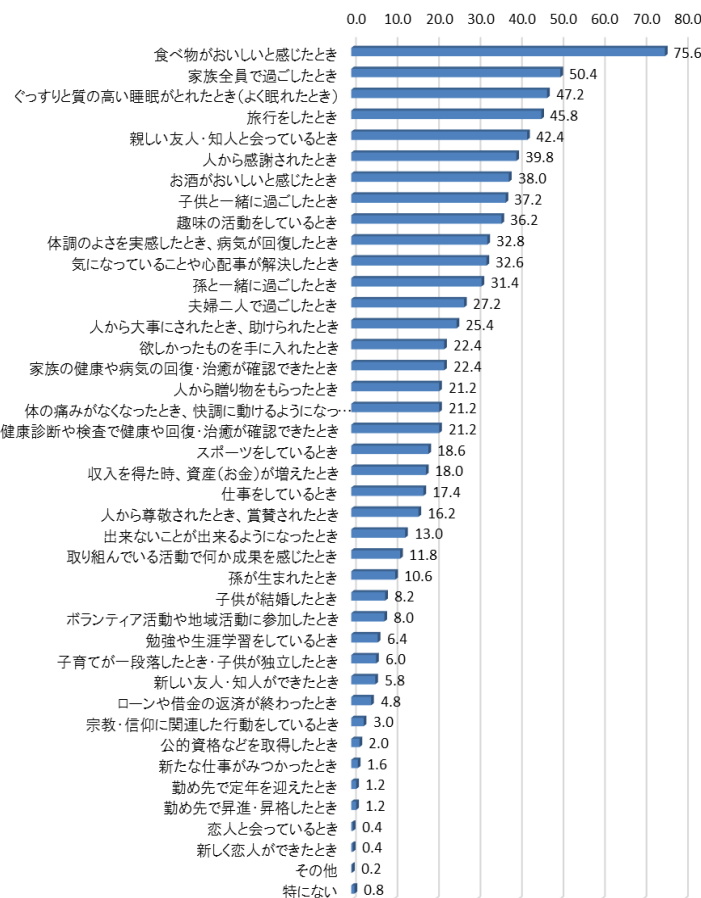


グラフ表 生活分野別満足度							グラフ表 生活分野別非不安度						
満足度＝満足している・まあ満足している							非不安度＝あまり不安は感じない・不安は感じない						
	健康	家庭・家族	家計・経済	人との交流	趣味・楽しみ	(仕事)		健康	家庭・家族	家計・経済	人との交流	趣味・楽しみ	(仕事)
男・51～60歳	64.0	79.0	55.0	87.0	75.0	59.2	男・51～60歳	40.0	52.0	38.0	75.0	78.0	44.9
56～65歳	65.0	81.0	51.0	83.0	77.0	63.5	56～65歳	36.0	59.0	37.0	79.0	83.0	49.5
61～70歳	68.0	82.0	51.0	81.0	81.0	80.5	61～70歳	43.0	68.0	45.0	85.0	90.0	63.6
66～75歳	70.0	82.0	56.0	85.0	84.0	84.9	66～75歳	50.0	62.0	48.0	82.0	88.0	66.1
女・51～60歳	66.0	72.0	53.0	94.0	72.0	70.1	女・51～60歳	34.0	45.0	33.0	82.0	80.0	51.9
56～65歳	67.0	69.0	58.0	92.0	74.0	72.5	56～65歳	42.0	45.0	33.0	86.0	79.0	56.4
61～70歳	70.0	74.0	62.0	93.0	74.0	66.7	61～70歳	45.0	53.0	45.0	90.0	79.0	54.8
66～75歳	59.0	73.0	60.0	93.0	80.0	80.0	66～75歳	37.0	53.0	49.0	88.0	81.0	73.4
n＝各100名 但し(仕事)はそのうち現在収入を伴う仕事をしている人 合計328名							単位: % n＝各100名 但し(仕事)はそのうち現在収入を伴う仕事をしている人 合計328名						

●幸せって。

おいしいこと、誰かと一緒に過ごすこと、よく眠れること。
たまに旅をすること、そして誰かの役に立つこと。

この一年で幸せを感じた時(MA)
男女51歳～75歳 n500 単位: %



この1年間で幸せを感じたのはどのようなときか、あてはまるものをリストの中からすべて選んでもらいました。第一位はダントツで、食べ物がおいしく感じたときでした。

25%以上の方が選んだ項目を生活分野わけして並べ替えると以下ようになります。

「食」

食べ物が**おいしく感じた**とき 75.6%

お酒が**おいしく感じた**とき 38.0%

「家族」

家族全員で**過ごした**とき 50.4%

子供と**一緒に過ごした**とき 37.2%

孫と**一緒に過ごした**とき 31.4%

夫婦二人で**過ごした**とき 27.2%

「健康」

ぐっすりと質の高い睡眠がとれた、**よく眠れた**とき 47.2%

体調のよさを**実感した**とき・病気が**回復した**とき 32.8%

「趣味・楽しみ」

旅行をしたとき 45.8%

趣味の**活動をしている**とき 36.2%

「人との交流」

親しい友人、知人と**会っている**とき 42.4%

人から**感謝された**とき 39.8%

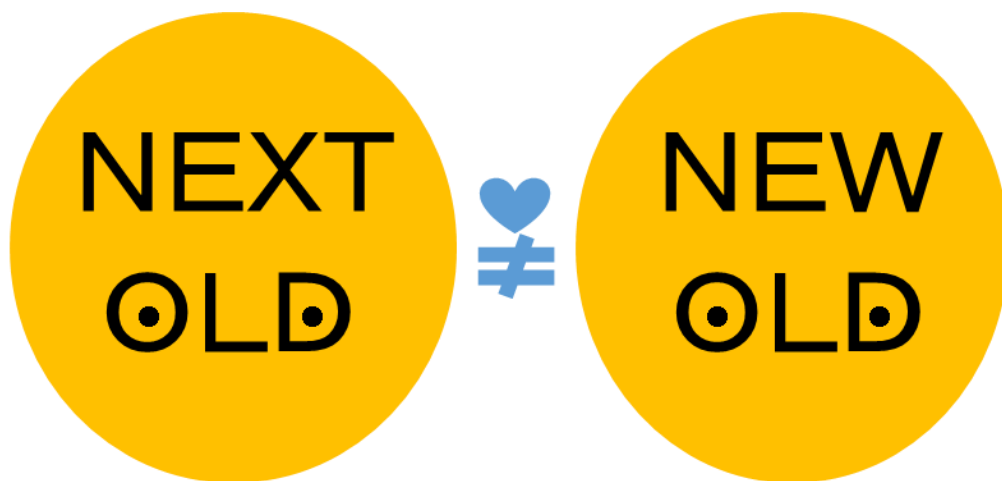
人から**大事にされた**とき、**助けられた**とき 25.4%

「生活全般」

気になっていることや心配事が**解決した**とき 32.6%

「おいしく感じたとき」は「食」で括りましたが、家族と一緒にの食事、健康だからこそ感じるおいしさや逆に闘病の中で味わうおいしさ、人との会食や祝宴のお酒の味であったり、様々な人生の場面とともに味わうおいしさが幸せへと繋がっていくのでしょうか。若い頃より食べることへの感謝の念は深まっているような気がするのには私だけではないようです。

「一緒に過ごす」「おいしく感じる」「よく眠れた」など、日常の中で小さな幸せを感じられることがいかに奇跡的なことなのか、非凡なことなのか。人はそれを失ったときに初めて気付くものと言われる。日々の当たり前を大事に時を積み重ねたいものですね。今日もお酒がおいしい私です。



Copyright©2017 Research Institute for High-Life

連載第三回(予定)

「衣生活」と「食生活」の今は、どうなっているのだろう？

公益財団法人ハイレイフ研究所